

呉錦堂を語る会通信

NO.40 Mar. 2018

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34
橋 雄三 方「呉錦堂を語る会」
Tel. 078-911-1671
編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員
発行日 2018.3.1



呉錦堂の大阪時代（続）

呉錦堂の大阪時代(1888、89年頃)については、すでに、本通信第34号で取り上げました。そして、呉錦堂の大阪時代の具体的な活動・事業の事例として、鴻山俊雄著『神戸大阪の華僑』（1979年 華僑問題研究所）の記述を引用しました。「蝙蝠傘商川瀬与三郎商店は川口三十番呉錦堂の資本により実質経営されていた」という内容です。ところで、この記述の典拠並びに関係文献・資料について、許淑真、二宮一郎両先生から、多くのご教示、情報をいただき、本第40号を発行することができました。深く感謝いたします。

本号では、先ず、「大阪華商の居住地、店舗、商号」などについて概観し、続いて、上述、「蝙蝠傘商川瀬与三郎商店は川口三十番呉錦堂の資本により実質経営されていた」の典拠資料と考えられる、明治26年(1893年)12月10日付『商業資料』「大阪に於ける外人の工業」を掲載いたしました。『商業資料』は大阪府立中之島図書館所蔵です。
(編集委員 橋 雄三)

《1. 大阪華商の居住地》

商工省貿易局『阪神在留ノ華商ト其ノ貿易事情』（1938年）より引用します。

「居留地ノ外安治川ニ臨ム富島ト古川町及ビ本田全部ヲ雑居地トシ、居留地ニ入ラザル外人及ビ支那人全部ハ此ノ雑居地ニ居住シタガ、有力華商ハ現在ノ本田小学校ヲ中心トスル四週辺に集中し、一般ニハ俗ニ番丁ト称セラレタ本田一、二、三番町辺ニ居住シテ居タガ居留地ニ近イ程有力華商ト見ラレテ居タ」

右の「川口居留地」の図中、36番までが居留地です。本田小学校は、1897年にこの地に移って来たので、呉錦堂の大阪時代、この地も雑居地の一部だったと推察いたします。

《2. 店舗を持つ場合、日本人から家屋を借りた》

新修大阪市史編纂委員会編集『新修大阪市史 第5巻』（大阪市 1991年）から引用します。

「清国人は雑居地で日本人から家屋を借りていた。明治16年(1883年)5月31日現在の「民有地家外国人へ貸渡一覧表」（外務省外交史料館蔵）によれば、52ヶ所を外国人が借りているが、そのうち44ヶ所を清国人が借りている。このころは、清国人は少なくとも127人はいたから、一カ所に二ないし三人住んでいたことになる」

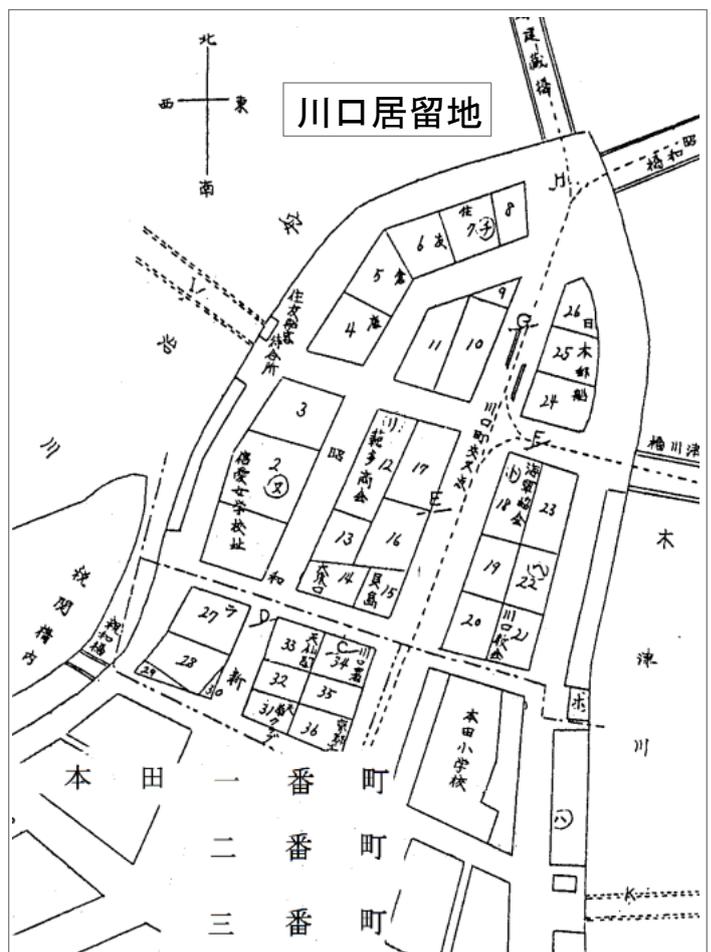
《3. 大阪華商の商号の前に付く「〇〇番」の意味》

鴻山俊雄著『神戸大阪の華僑』から引用します。

「(大阪在住の華商のうち、独立して)店舗を構えたものは、店の商号のほか何番館と称した。例えば十二番館鴻茂祥号というようなものである。この番

号は適宜に付けるもので別に意味がなく、実際欠番のものも少なくなかった」

大阪華商について記述した多くの文献中、上述の「川口三十番呉錦堂」のように、「〇〇番」あるいは「〇〇番館」といった表記を目にし、その意味するところが気になっておりました。(次頁に続く)



川口居留地研究会『川口居留地 1』（1988年発行）より転載。編集委員が一部加筆

呉錦堂の大阪時代（前頁に続く）

引き続き、「大阪華商の居住地、店舗、商号」についてみていきます。

なお、下の枠内の「中国商人取引一覧」は、堀田暁生・西口忠共編『大阪川口居留地の研究』（思文閣 1995年）からの転載です。

《4. 大阪華商の商号の前に付く「〇〇番」の意味(続)》

大阪時代の呉錦堂は、規模はわかりかねますが、本田一、二、三番町辺りに、日本人から家屋を借り、店舗を構えて商売していたと推察いたします。

次に、後述、『商業資料』に記述のある「三番廣昌隆」「十四番同孚泰」「三十番呉錦堂」「六十五番祥隆号」など、商号の前に着く番号について考えてみます。

ところで、「六十五番祥隆号」は「中国商人取引一覧」では「56番祥隆号」となっており、「三十番呉錦堂」は見当たりません。なお、「30番」に関しては「裕貞祥」と記載され、また、「30番1」とい

う枝番がついて、「震記号」という商号も存在します。前頁の記述、「一カ所に2ないし3人住んでいたことになる」という記述からすると、「30番」で呉錦堂も営業していたのでしょうか。あるいは、当該表の原掲載紙は1889年12月4日付『東雲新聞』で、この時期は呉錦堂の大阪時代の最後と思われるが、既に、神戸へ移っていたとも考えられます。

それから、もう一つわからないのは、呉錦堂が個人名になっていることです。華商は、「股」（日本でいう株）を出資し合って、例えば、「同孚泰」や「祥隆号」を設立します。呉錦堂も大阪時代、「養生栄号」という商号で事業を行っていたという文献もあります。どうだったのでしょうか。

それにしても、これから商号の前に付く「〇〇番」の意味がはっきりしません。前頁、鴻山俊雄氏は、「この番号は適宜に付けるもので別に意味がなく、実際欠番のものも少なかつた」とおっしゃっていますから、野球の背番号のようなものだったのでしょうか。何かルール、意味がありそうな気がいたします。

これについて、「事業申請をしたときに、官庁が付した登録番号ではないか」とおっしゃる研究者もいますが、はっきりしたことはわかりません。更なる調査が必要です。

呉錦堂の大阪時代の具体的な活動・事業の事例、及び商号の前に付く「〇〇番」の意味などについて情報をお持ちの方は、ご提供願います。

表2 中国商人取引一覧

番館	商号	輸出品	輸入品
1番	復興号	海産物、菌類、生糸、屑物、寒天、木材、密蠟	
3番	広昌隆	海産物、菌類、木蠟、樟脳、漆、銅、陶器、燐寸、針金、玩弄物、菓種、扇子、雜貨品	
8番	森茂号	小間物、乾物、陶器、漆器、寒天、珊瑚、真珠、珍石、莫大小、燐火	
12番	怡和号	海産物、菌類、寒天、木蠟、菓種、燐寸、屏風、陶器	麝香、玉子
13番	盈監泰	漆、銅器、玩弄物、「ランプ」、「ホヤ」、扇子、人形、竹簾、日傘、小間物、莫大小、陶器、漆器	
14番	同孚泰	海産物、菌類、木蠟、菓種、寒天、密蠟、針金、銅、莫大小、鹿角	紅花、砂糖、麝香
20番	同茂泰	海産物、菌類、樟脳、木蠟、密蠟、燐寸、銅、菓種、鹿角、漆、銅、陶器、屏風、扇子、団扇、「ランプ」、「ホヤ」	
24番	利興成	小間物、陶器、銅、漆器、寒天、珊瑚、真珠、珍石、莫大小、燐寸	
30番	裕貞祥	海産物、菌類、樟脳、密蠟、菓種、燐寸、素麵、牛筋、雜貨品	鼈甲、象牙、羊皮
30番1	震記号	海産物、菌類、寒天	綿、苧
32番	揚天祥	珊瑚、水晶、珍石、銅、真珠、白蠟、寒天	綿、骨董、芋、馬毛、羊毛
35番	義成生号	海産物、菌類、燐寸、雜貨品	〆柏、綿
37番	鼎子	海産物、菌類、雜貨品	
38番	豊記商	海産物、寒天、銅、菓種	綿、苧、太布、反物、紙、羊毛
41番	洽号	菓種	太布、羊毛
55番	徳興隆号	海産物、菌類、菓種、針金、莫大小、銅、雜貨品	
56番	祥隆号	海産物、菌類、密蠟、菓種、燐寸、銅、樟脳、紫檀棚、屏風、玩弄物	綿、鼈甲、玉子、山羊皮
80番	福聯順	海産物、寒天、菓種	
90番	怡銷号	海産物、寒天、菓種	〆柏、綿
11番	東興号		羅紗

注：『東雲新聞』（1889年12月4日）より作成。

明治26年(1893年)12月10日付『商業資料』

下に、前頁で触れました明治26年(1893年)12月10日付『商業資料』の表紙(第一面)を掲載いたしました。目次の「商海彙報」に「大阪に於る外人の工業」という項目が見えます。

商業資料

商業資料第貳號目次

祝詞

遠海第一遊 高崎東家君 瀧田弘道君 鈴木孝太郎君 山中巖君
 林田龜太郎君 伴三之助君 山本新太郎君 岡田治清君 鈴木安藏君
 藤田金助君 三塚三郎君 田中眞吉君 室見彌太郎君 清水善一郎君
 外に電報(祝詞)十數件及び各新聞各新聞の祝詞

沿革

沿革由來 ○大阪商船の由來 ○道頓堀歌舞伎の由來 (芝居
 本代演の由來 ○堂島米商沿革(其二) 傾合米の盛騰 ○肥後商船沿革(其二)
 築島の開)

近古叢話

大阪財力の源泉 ○住友家の家憲 ○天保年度の御
 用金 ○稻米通貨の時代 ○宗、大聖と交りす ○明治百年の
 人口 ○一夕の換銀一百金 ○淀屋辰五郎と綾屋五兵衛 ○後藤
 又兵衛の財産 ○家屋賣買の歩一銀 ○其他叢話數件

統計

川筋其他諸川の船舶 ○明治四年以後郵便事業の進捗 ○米穀酒
 費高の増加 ○全國私設の鉄道資本(其二)

偉蹟談

河村瑞賢(其二) ○安井進頓(其二) ○清池宗利
 七島青蓮の蓋船 ○讀航砂船の沿革(其二) ○寛永
 以後大阪の生絲貿易 ○全國本年の稻作被害

商海彙報

關西府縣水産會 ○五買絲の輸入を減す ○馬場野
 戸間の復線鉄道 ○防穀令に付能勢領事の特達 ○大阪商品陳列
 所の海外試賣 ○關西の糯米所 ○五買航路の競争 ○大阪に於
 る高歩貨 ○大阪に於る外人の工業 ○統制百年間の越年米 ○銀
 行會社、鉄道、取引所彙報 ○大阪紳士出入表 ○其他彙報數件

口碑漫錄

天王寺屋の家柄 ○明治四十六年四六窓わらじ ○堂島の虎
 の市 ○淀屋の常座敷 ○其他珍話數件

商人傳記

五代友厚(上)

名士經濟談

川田小太郎 金子榮太郎君 若宮正吉君 林田龜太郎君
 井上 駿君 小山健三君 加藤正太郎君 島井廣吉君 濱野 茂君
 瀧田 健君 高等商業學校の出身

商業教育

大塚平八郎軍兵の顛末(其二) 風の含稿

商園詞香

助給置置 近松門左衛門 ○白玉齋豆腐の記 大野百穂

雜門

三百年前の對外思想 ○寛永以後大阪人口の増減
 ○享保以後の大阪米商 ○安政以來の條約國 ○其他雜事數件

批評

紀州密相の由來 中村勘助 ○偽寸輸出高 ○歐州に於
 る偽寸製造高 ○明和年間の大坂長者 吳善堂君 ○上古の人口

金融商況

○大坂商會銀行手形流通盛 ○大坂市中兌換所日歩 ○日本銀行大坂支店利子改正 ○金
 買相續 ○外貨相場相續 ○天金銀式米現況

應永年間難波古園(世書) ○廣告 ○社告



十二月十日刊行(第一面)
 十二月十日刊行(第一面)

明治26年(1893年)12月10日付『商業資料』 「大阪に於ける外人の工業」

下記、『商業資料』本文中、朱線部分が、「川口清商三十番呉錦堂…」の記述のある箇所です。なお、朱線及び同箇所の拡大表示は編集委員の加筆です。

(一十四) 號 貳 第 (巻 壹 第) 料 資 業 商 日 十 月 二 十 年 六 廿 治 明

●孟買航路の競争

日本郵船會社が聯合航路會社と結び孟買航路を開きしより彼英國被阿會社の大ニ驚き慕き此の事...

て彼れに掌握せられ居るもの少なからず、高麗橋一丁目編編傘商川瀬興三郎の川口清商三十番呉錦堂に於ける御堂筋備後町石鹼商福井商店の川口清

以て貸付營業をせず者の状況を調査するも是れ等ハ何分漢として正確の統計の依る可きなきも先づ...

前者の如し(尤も是れ等の別に口入の手を握られバ其手数料も又貸主の利益に歸す)而して其翌...

●大阪に於ける外人の工業

も末月の返済期日大抵二十六七日頃とし若し同日に返済する事の出來しして期月を延す様のと...

近來新たに起れる大阪の工業の多くハ合資事業にして其資本の過半ハ他府縣より注入せし者なり...

秋月清十郎氏(大阪府會常置委員)の名義なるも其實の神戸の外南ハッメーの所有にして秋月氏の内...

●既往百年間の越年米 享和二年(九十二年)以後大阪市場に於ける毎年...

Table with 2 columns: Year (享和二年 to 明治十三年) and Rice Price (米高). Lists prices in various units like 石 and 俵.

●大阪博覧會の賣品室貸渡規程 大阪府會は於て府立博覧會内土産及商品貸渡料徴収の議を決したるに付き今回同議にてハ左の如く...

Table titled '大阪紳士の出入表 (十一月申)'. Columns include Name (紳士名), In/Out (出入の要件), and Date (日).

Table with 2 columns: Name (紳士名) and Date (日). Lists names and their corresponding dates.